

9 パセリの品種比較試験及びうどんこ病予防剤と殺虫剤との混用による薬害調査

背景と目的

本市が道内の主要産地であるパセリは、うどんこ病対策が喫緊の課題となっており、このため、基幹品種と同病に強いとされる品種との比較試験を行うほか、定期的な予防剤散布時に害虫防除を行う際の薬害発生が懸念されているため、生産者の使用頻度の高い殺虫剤との混用による薬害の有無の調査しました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会パセリ部会

試験方法

(1) 供試品種 ‘グラント’ (基幹品種) : カネコ種苗 (株)

‘エンリッチ’ : ツルタのタネ (株)

(2) 試験方法

ア 品種比較試験 (‘グラント’, ‘エンリッチ’ を供試)

1 週間に 1 回, 1 株当たり 9 葉を残して収穫し, 収穫調査, 特性調査, うどんこ病発病度等を調査しました。なお, うどんこ病発病度等については, うどんこ病予防剤 (クリーンカップ) を収穫翌日に毎週散布し, 調査しました。

イ 混用薬害調査 (‘グラント’ を供試)

全試験区に毎週, 収穫翌日にうどんこ病予防剤 (クリーンカップ) を散布した上で, A～C 区では, 7～8 月の各 1 回, 同予防剤と殺虫剤を混用し, 薬害による葉の変色, 汚れの有無を調査しました。

試験区名	薬剤名・使用条件	
	7 月 (高温時)	8 月 (通常時)
対照区	クリーンカップのみ	
A 区	アフーム乳剤を混用	マトリックフロアブルを混用
B 区	モスピラン顆粒水溶剤を混用	アフーム乳剤を混用
C 区	マトリックフロアブルを混用	モスピラン顆粒水溶剤を混用

ウ 耕種概要

- ・ 3 月 10 日播種, 4 月 21 日鉢上げ, 5 月 19 日定植。
- ・ 株間 25cm×条間 25cm, 5 条千鳥植え, 8,000 株/10a

試験結果

(1) 品種比較試験 (表 1～2, 図 1～2)

収量性は ‘エンリッチ’ が ‘グラント’ を上回りましたが, 特性では ‘グラント’ が草丈・葉柄長・葉縮ともに ‘エンリッチ’ をやや上回りました。

うどんこ病の初発日は, ‘グラント’ は 8 月 3 日, ‘エンリッチ’ は 8 月 11 日でした。‘エンリッチ’ は, ‘グラント’ よりも収穫期間中の発病葉率, 発病度が低く, また, 初発も 1 週間遅く, 発病葉率, 発病度ともに 2 週間遅く推移しました。

特に, 8 月において, ‘エンリッチ’ はうどんこ病による規格外の株が少なく, 同時期の調製後収量を多く保てたことにより, 合計収量が多くなったことにつながりました。

この結果から, 今年度のような高温環境での栽培においては, 特性では多少劣るものの ‘グラント’ よりも収量が多く, うどんこ病の初発・まん延が遅い ‘エンリッチ’ の方が適していると考えられました。

表 1 収量調査結果

	グランド			エンリッチ		
	調製後収量 (g/18 株)	収穫枚数 (枚/18 株)	1 枚重 (g)	調製後収量 (g/18 株)	収穫枚数 (枚/18 株)	1 枚重 (g)
7 月	1,867	187	10.0	2,153	202	10.7
8 月	1,329	101	13.2	2,642	223	11.8
9 月	110	10	11.0	203	22	9.4
10 月	569	46	12.5	306	25	12.3
合計	3,875	344	11.3	5,304	472	11.2
10a 換算値 (kg)	1,722			2,357		

表 2 特性調査結果

	グランド	エンリッチ
草丈 (cm)	33.5	32.2
葉柄長 (cm)	14.4	13.1
葉縮 (指数 : 強 4~弱 1)	2.9	2.7

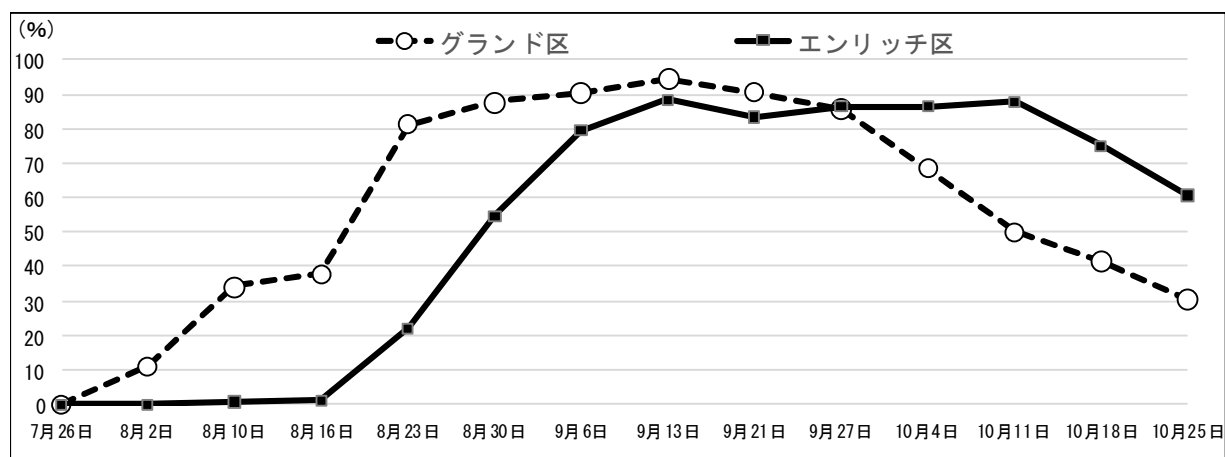


図 1 発病率の推移

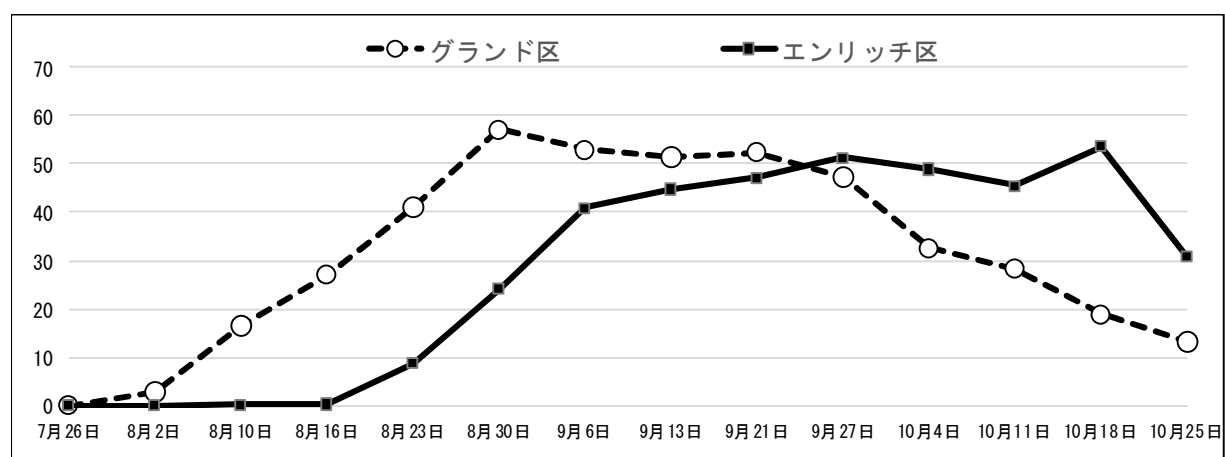


図 2 発病度の推移

(2) 混用薬害調査

殺虫剤との混用については、温度環境にかかわらず、薬害による変色、汚れともに見られなかったため、供試した殺虫剤とクリーンカップとの混用については問題ないと考えられました。